



穴部・国府津線の
発掘調査成果速報！

小田原市 271 遺跡

(下堀広坪・下堀塚田町)

方形居館の外堀を発見！

小田原市 271 遺跡の発掘調査

下堀地区に所在する 271 遺跡は、小田原土木事務所による都市計画道路 穴部・国府津線街路事業に伴う埋蔵文化財の記録保存として、発掘調査を実施しています。

調査区は、中世の方形居館ほうけいきょかんと言われている屋敷地の北側にあたります。お屋敷は、堀と土塁が長方形にめぐる大規模なものです。今回の調査によって、堀が北側では二重にめぐることが明らかになりました。

堀からは、陶磁器類の破片のほか、漆器の椀が良好な状態で出土していることが特筆されます。また、西側の調査区からは建物跡の痕跡である多数の柱穴のほか、井戸や溝などが発見されています。

今回発見された遺構や遺物などは、今後の出土品整理や分析などを経て発掘調査報告書として刊行し、正式に公開されます。

これら先人達の足跡を、郷土小田原の歴史を探る資料として、活用して頂ければ幸いです。



堀の調査状況



堀の屈曲部



堀の土層



漆椀



漆椀



漆椀



下駄

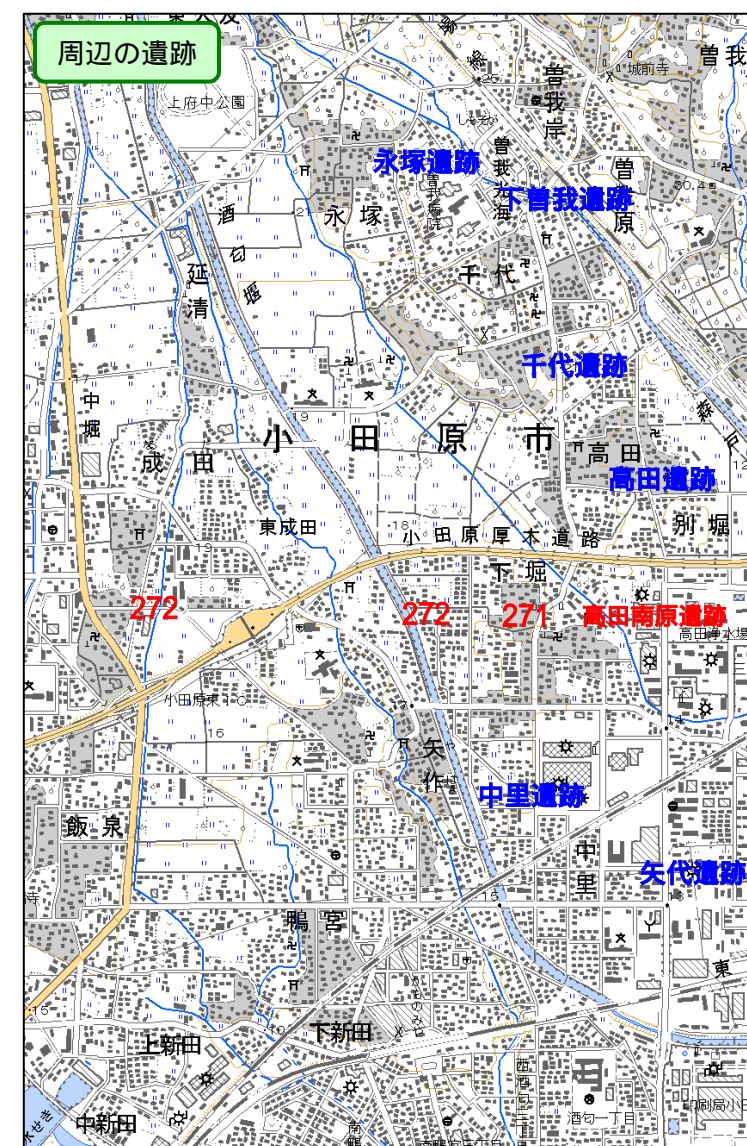
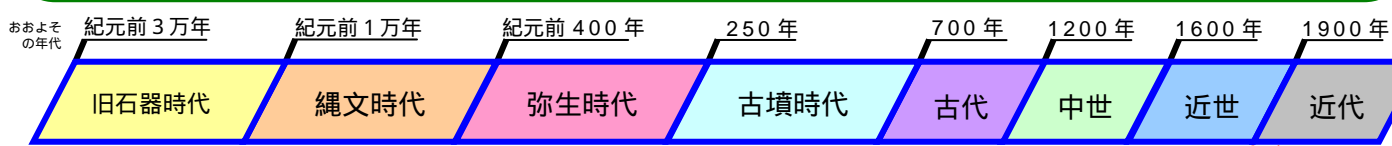


磁器(青磁)



銅製品(筈)

調査区は、土塁と堀に囲まれた方形居館の北西部にあたります。今回の発掘により新たに堀が発見され、居館の堀が二重に巡ることが明らかとなりました。外側の堀は、幅 5m、深さ 1.3m、断面形は逆台形です。堀底からは、陶磁器や木製品などが出土しています。なかでも漆椀の遺存状態は良好で、極めて丁寧に作られているものがあります。また、髪の毛をかき分ける銅製の筈こうがいは、花菱と思われる家紋の施された優品です。堀から出土した陶磁器類の年代は 13～16 世紀と年代幅を持ちますが、居館が使われていた年代を検討する上での重要な資料となるものです。堀は 16 世紀頃にはある程度埋没していたと考えられます。



周辺には、千代遺跡(縄文～古代)・中里遺跡(弥生)・三ツ俣遺跡(弥生～近世)など神奈川県を代表する各時代の著名な遺跡が多数所在します。

今回の調査成果は、成田上耕地遺跡や高田南原遺跡など周辺の遺跡とあわせて分析していく必要があります。



発見された遺構は、写真や測量などの記録をとります。

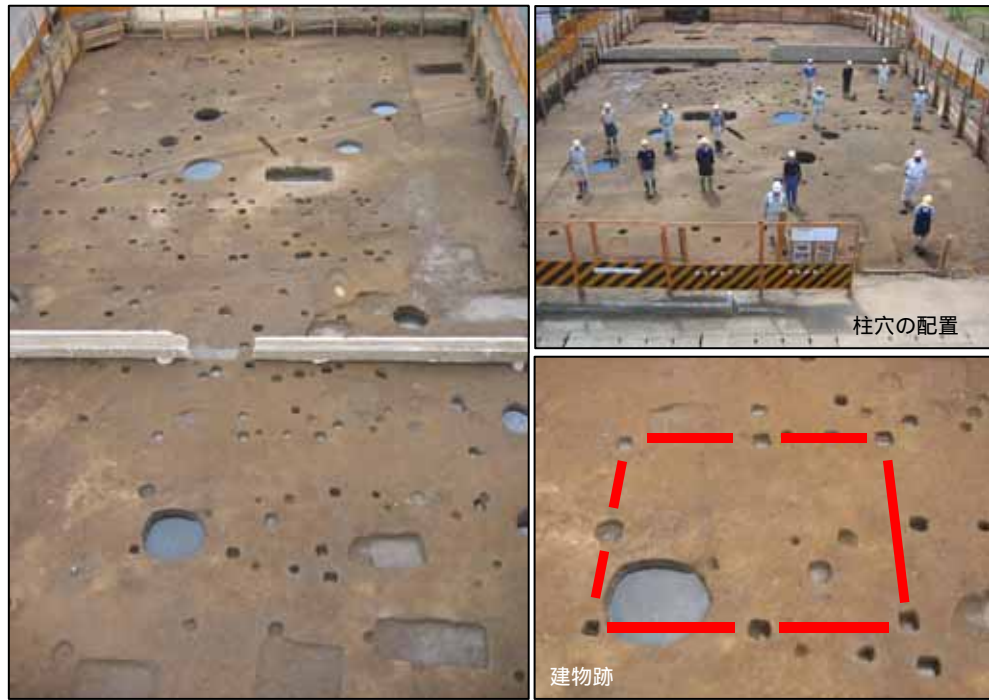
遺構は土層観察帯を設定し、覆土の堆積状況を記録します。

測量・記録作業

穴部・国府津線の発掘調査成果速報
小田原市 271 遺跡
2007.3.24
財団法人 かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
045-252-8689



財団法人 かながわ考古学財団



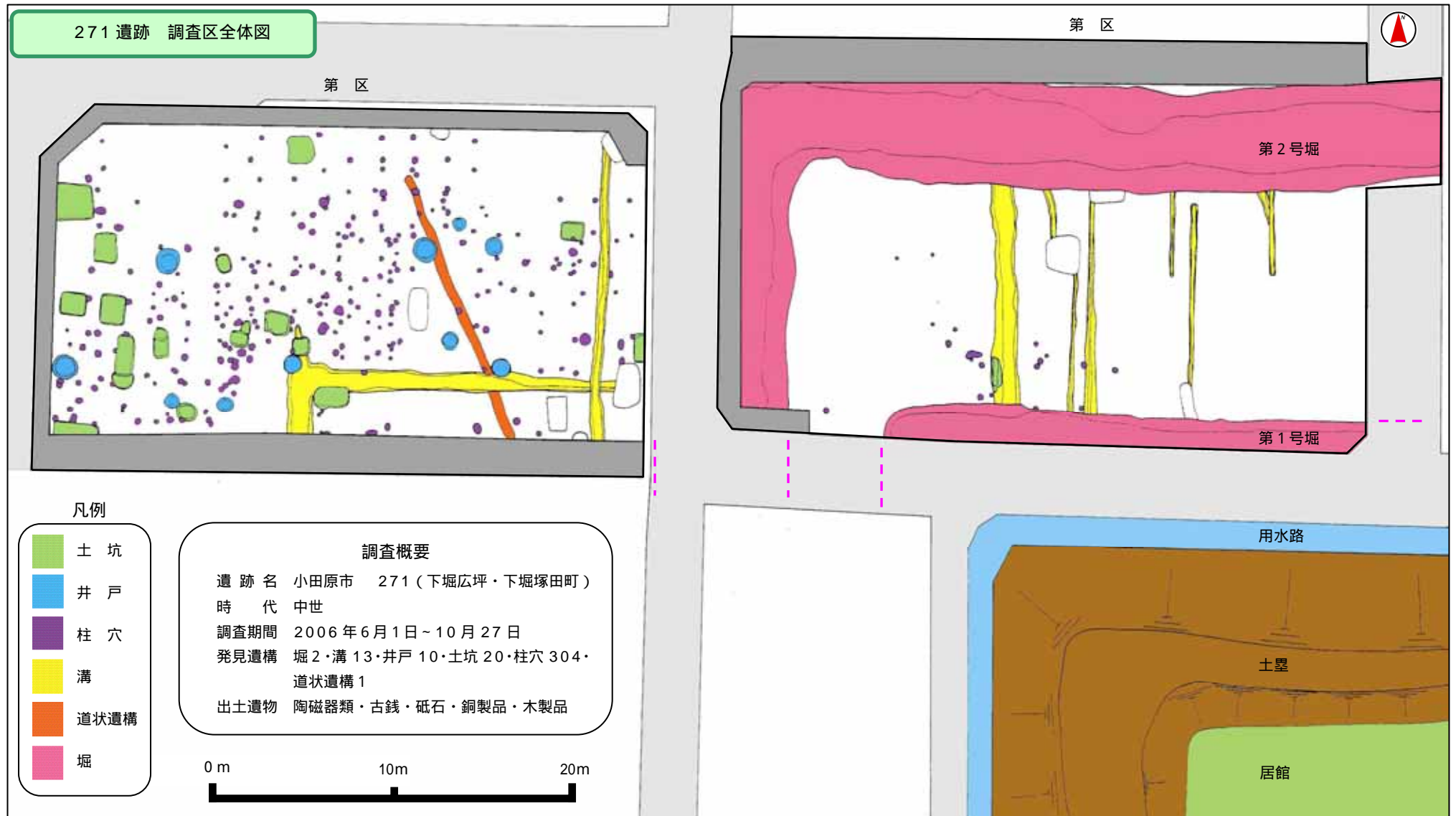
柱穴は、径 25cm・深さ 30cm 前後のものが多く合計 301 基が発見されています。配置から複数の建物があったことがわかります。建物は南北軸で建てられ、計画的な土地利用を示しています。



井戸は、合計 10 基が発見されています。大きいもので径 1.3m・深さ 1.5m です。第 1 号井戸は常滑の大甕、第 5 号井戸は多量に投げ込まれた礫の他に、漆器や石臼の破片が出土しています。



方形居館を取り巻く土塁のすぐ外側には堀がつくられていました。堀は埋め立てられ道路や住宅になっていますが、現在の用水路となっている部分にその痕跡をとどめています。第 1 号堀は内堀と考えられる部分で、その壁の立ち上がりを確認できました。覆土の上層からは明治時代以降～現代までの遺物、覆土中層からは江戸時代頃の遺物が出土していることから、堀は完全には埋められず、何らかの形で長期間にわたって利用されていたと考えられます。



〔調査成果〕

第 区は、西側の調査区で、多数の柱穴と井戸・溝・土坑などが発見されています。柱穴の配置をみると十数棟の掘立柱建物が規則的な配置で発見されています。居館と隣接する場所は、関連する施設や関係者の居住域など、計画的な土地利用が行われていたと考えられます。

第 区は東側の調査区で、方形居館の堀が二重に巡っている事が明らかになりました。第 1 号堀は、内堀にあたる考えられ、土塁の裾から 7m の幅を有しています。居館の北西部では、土塁に沿うようほぼ直角に南へ屈折していると思われます。

第 2 号堀は、幅 6m 前後・深さ 1.3m の規模で、外堀にあたる考えられます。第 1 号堀と同様に居館北西部でほぼ直角に南へ屈折しています。北側では、第 1 号堀と第 2 号堀の間隔は、約 13m 空いています。

第 2 号堀からは、中世の陶磁器類（青磁碗・明染付・常滑大甕）などの破片が出土しています。これらは、堀や居館の年代を検討する上での重要な資料となるものです。

第 2 号堀の底からは、地下水に守られ遺物が酸化しにくかったことから漆器（漆椀・蓋・櫛）・木製品（下駄・形代）や銅製品（筭・古銭）など各種の遺物が良好な状態で出土しています。



下堀方形居館の概要

立地 足柄平野 酒匂川左岸標高 14m の低地平坦部
 規模 東西 103m・南北 129m 南北に長い長方形
 土塁 敷幅 14m・上幅 2m・高さ 3.2m(いずれも最大値)
 特徴 土塁は戦前まで四方に残る。南面の東部分が外側に少し膨らむことから出入口の可能性が考えられる。

